

# 五十市地区地域福祉活動計画

「誰もが まんなか 活気あふれる  
いそいち」



今町鉄道記念公園

令和8年3月

## 《五十市地区地域福祉活動計画策定委員の皆さん》



～新しい地域福祉を見据えて～

この計画は都城市地域福祉計画に基づき5年後、10年後の計画作成に基するため、地区策定委員を選考し、現在の地域活動の大事にしたいことや課題、今後実施したいこと等を出し合って地域の魅力化促進を図るために参画するもので、五十市地区も23名の策定委員を委嘱し、令和7年7月から12月まで計5回の会議を実施して、これまでのエピソードから大切にしたい考え方、価値観を再確認しながら地域のお年寄りから幼児のためにこれから取り組んでいく事業等を幅広く協議し熱心に取り組みました。

策定委員相互の絆も深まりました。その結果として「誰もがまんなか 活気あふれる いそいち」のローガンの幟旗が出来上がりました。五十市地区社協は、今後の目指す地域社会福祉像をこの計画をもとに地域の皆さんと一緒に推進していきたいと思っていますので、更なるご支援ご協力のほど宜しくお願いいたします。



五十市地区地域福祉活動計画策定委員会  
委員長 福丸 良秋

## 《策定委員会の進め方》

### 第1回

過去5年間の地域活動で感じた良い変化のエピソードを出し合い、共感したものに投票。ひとつのエピソードを深掘りし、大事にしてきた価値観を考えました。



### 第2回

1回目で出し合った全員のエピソードを深掘りし、日頃大切に思っている価値や意義のあるキーワードを出し合いました。



### 第3回

大事にしたい価値観をもとに作られた行動指針と照らし合わせながら、これからの取り組みについて話し合いました。



### 第4回

これからの取り組みを実現するため、必要な具体案を「組織体制」「財源」「事務局機能」「拠点」の視点から考えました。



### 第5回

できあがった計画を全員で見直し、これまで出し合った大事にしたい価値観（キーワード）から、スローガンを決定しました。



## 地区社協のあゆみ①（設立年月日、活動の経緯など）

### 【地区社協のあゆみ】

昭和58年	五十市地区地域福祉推進委員会として設立
平成10年	福祉なんでも相談（五十市事務局）窓口開設
平成13年	第2期地区社協モデル事業のモデル地区に指定
平成13年	五十市地区社会福祉協議会に改称
平成17年	福祉なんでも相談（今町事務局）窓口開設
平成21年	都城市子育て応援隊体制整備事業のモデル地区に指定
平成21年	11月より子育てサロンいそいち「ピヨピヨひろば」開始
令和2年	「ふれあい交流のつどい」を「ふれあい訪問事業」へ変更

### 【受賞歴】

平成30年	都城市社会福祉協議会会長表彰
令和元年	都城市長表彰
令和2年	宮崎県社会福祉協議会会長表彰
令和3年	みやざき社会貢献活動表彰

### 【主な事業】

- ふくしなんでも相談
- いたつみろかい（高齢者サロン・多世代交流）の推進
- ふれあい訪問（ふれあい交流）事業
- 男性クッキング（おじいちゃんクッキング）
- 学習支援事業  
（五小っ子 Study Room・今町っ子学び館・いそいち Study Room 土曜の朝）
- 介護者のつどい
- 生活援助員研修
- 自治公民館長・民生委員児童委員・地区社協合同意見交換会
- 地域・学校・社会福祉施設との意見交換会
- 広報誌発行
- 子育てサロンいそいち「ピヨピヨひろば」※令和2年度より休止中

### 【体制】

自治公民館長、民生委員児童委員、高齢者クラブ、婦人会、生活支援コーディネーター、地域包括支援センター

## 地区社協のあゆみ②（トピック・写真など）

### トピック① 男性クッキング（おじいちゃんクッキング）

65歳以上の男性高齢者を対象に料理教室を実施しています。五十市校区では毎月第2金曜日の9:30～12:00、今町校区では年2回実施しており延べ100名近くが参加しています。男性高齢者の貴重な交流の機会となっています。



### トピック② ふれあい訪問

毎年80歳以上の一人暮らし高齢者と、90歳以上の二人暮らし高齢者を対象に、自治公民館長、民生委員、生活支援コーディネーターと協働して高齢者宅を訪問し、見守り活動を行っています。コロナ禍以前は「ふれあい交流のつどい」として開催していましたが、集うことが難しくなり現在の「ふれあい訪問」になりました。住民の皆さまからも大変喜ばれています。



### トピック③ 学習支援事業

中学3年生を対象に、10月～翌年2月まで毎月2回学習支援を実施しています。また、夏休み期間には五十市小学校と今町小学校を対象に各2回実施しています。地域の学生ボランティアや教員OBのボランティアの協力をもらいながら、子どもたちの居場所と学びの場として今後も継続していきます。



# 創造の道すじ ～笑顔と安心を生み出す「好循環（サイクル）」～


第5次地域福祉活動計画を策定するにあたり、全15地区で現状の「課題・願望」と未来への「想い」をシートに書き出しました。そこには現場のリアルな熱い想いが詰まっています。

## 1. 地区の全体スローガン：これから5年間の目指す地区全体の指針とは？

⇒第5回策定委員会（最終回）では、地区全体のスローガンを決めました。

## 2. 行動指針：地域での活動や取り組みを導く大事な価値観とは？

⇒第1回～2回策定委員会では、「最もすごいチェンジ」を出し合いました



**五十市Bグループ**

**地域の活力は子ども！**

**想いの伝承**

- ・子ども達からあいさつしてくれること
- ・思いやり
- ・子どもの素直さ
- ・言葉の発信
- ・継続
- ・大切さ
- ・おもい
- ・心

**エピソード**

子どものあいさつに力を入れて評価された(多方向)隣接の地区の方からの連絡もあった。  
30件以上お礼の電話があった！  
あいさつの大切さを感じた！（懇和会）

**つながり**

- ・地域とのつながり
- ・地域での安心、安全（あいさつ運動）
- ・見守り

**お互いの称賛**

- ・世代交代
- ・元気をもらう
- ・ちょっとしたことで元気になる
- ・保護者間との触れ合いの場所

**次なるステージへ**

- ・不登校の抑止
- ・コロナ前を取り戻した
- ・大人も子どもも成長
- ・校内活動の向上

◆第5次都城市地域福祉活動計画「五十市地区地域福祉活動計画シート」（抜粋）

地区全体スローガン	行動指針	活動・事業
<p style="text-align: center;"><b>誰もが まんなか 活気あふれる 五十市</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>関係団体の情報共有の場を作り、日頃から顔の見える関係と連携体制を作ろう</b></p>	<p>自治公民館長・民生委員児童委員・地区社会福祉協議会合同意見交換会 圏域内の課題共有や連携体制をより強固なものにしていくことを目的とした意見交換の場（年1回）</p> <p>地域・学校・社会福祉施設との意見交換会 圏域内の課題共有や連携、協働して取り組める事業の検討を目的とした意見交換の場（年1回）</p>

これまでの活動を整理し、未来へ向かってどう進んでいくか、「その道すじ（ロジック）」を解説します。

### 3. 実現に向けて必要なこと：その価値観を大事に、実現に向けて必要なことは？

⇒第3回～4回策定委員会では、「これから取り組むこと」「何が整えば実現できるか」を話し合いました。

#### 【入り口（楽しさ・共感）：人が集まる】

多世代・笑顔・わくわく・サロン・顔見知りを増やす・参加へのハードルを下げる

↓ ここから信頼が生まれる ↓

#### 【深まり（信頼・支え合い）：相談できる】

ちょっとした困りごと・キャッチ・見守り・楽しい場でできた関係性から

↓ これが安心をつくる ↓

#### 【土 台（持続可能な仕組み）：無理なく続ける】

拠点・IT・自主財源

新「地区社協」創造への道すじ

#### 実現に向けて必要なこと

これから取り組むこと	何が整えば実現できるか	目指す 地区社協像
<p><b>【場の継続性と充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様なテーマ設定と実施回数の増加</li> </ul> <p><b>【多世代参画と交流の場づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若い世代の柔軟な発想の取り込み</li> <li>馴染みやすい名称に変更</li> </ul> <p><b>【コーディネーターの配置】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連携協働の中間的な人材の配置</li> </ul> <p><b>【福祉施設の活用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域拠点としての開放と活用</li> <li>福祉施設が持つ強みの掛け合わせ</li> </ul>	<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域内の福祉施設職員との連携</li> <li>各校生徒会、ボランティアクラブなど活動的な児童生徒の協力</li> <li>従来の年1回の取組を年2回程度に検討</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地区社会福祉協議会活動推進助成金の活用</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連携、協働を取り持つコーディネーターの役割（中間の調整役）を地区社会福祉協議会が担う</li> <li>交流の場をキーワードにした名称変更</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の協力が得やすい場や時間帯の設定</li> <li>地域拠点としての福祉施設の活用（施設体系によっては慎重な対応が必要）</li> </ul>	<p>※これ以降を参照</p>

第5次都城市地域福祉活動計画 全体スローガン

笑顔でつながり 未来を綾なす 新しい地域

新「地区社協」創造

3つの行動原則

1. 「ゴール」を目指す姿 笑顔が集まる、誰もが主役になれる居場所をつくる
2. 「エンジン」推進力 多様な力とつながり、広がる共感で地域を動かす
3. 「ベース基盤」 小さな「困った」を見逃さず、無理なく支える仕組みをつくる

実現のための4つの創造

1. 組織体制：「固定化」から「チーム戦」へ
2. 財源：「依存」から「稼ぐ力・応援される力」へ
3. 事務局機能：「事務処理」から「つなぎ役」へ
4. 拠点：「会議室」から「あたたかい居場所」へ

15地区地域福祉活動計画

姫 城／「優気」をもってふれあって 学びあってつながろう 姫城の宝たち ～姫 LOVE 増殖中！～

妻ヶ丘／笑顔で声かけ 未来へつなぐ 妻ヶ丘

小松原／世代をこえて 笑顔でつながる 小松原

祝 吉／未来につなぐ笑顔のまち祝吉 ～ありがとうをいっぱい咲かせよう～

五十市／誰もが まんなか 活気あふれる いそいち

横 市／みんながつながる横一愛

沖 水／ささえ愛 笑顔でつながる 沖水の和

志和池／みんなの笑顔でつながる未来へ ほっぶ すてっぶ 志和（しゅわ）っ池（ち）！～

庄 内／地域を愛し、お互いさまの心でみんなが支え合うまち・庄内

西 岳／西岳1チーム お互いさまで、ほっこりにっこり ～ぼちぼちやっみろかい～

中 郷／みんな元気 笑顔あふれる なかんごう ～こども・未来・絆～

山之口／すべての住民が、いつまでも住み慣れた地域で豊かに生きがいを持って生活するために

高 城／未来へつながる ほっこり思いやりのまち高城

山 田／ふれあい、ささえあい、つながりあう 福祉のまちづくり

高 崎／支えあい未来につながる★きらり★高崎

都城市社協経営基盤強化計画

1. 組織・人材

2. 財政

3. 事業

4. 拠点

## MSCのエピソード

○活動を通じて地域でおこった変化「良かったこと」「うれしかったこと」

※Most Significant Change (MSC) ⇨「最もすごいチェンジ」



登校時の見守りで、昨年1年生だった児童が進級して、あいさつがハイタッチになった！



子どもたちのあいさつに力を入れたら、隣の地区の方や色々な方々から30件以上お礼の電話があり、あいさつの大切さを感じた！



保育園の地域交流会で、子どもたちと地域の高齢者が一緒に作業している姿が見られて、ほっこりした！



公民館長や民生委員児童委員の皆さんと顔も見える関係を築くことができ、その結果、全地区にこけないからだづくり講座を開設することができた！



地区の環境美化の日の作業で、一人暮らし高齢者の庭木の剪定をしたら感謝された！

ほかにもこんな素敵なエピソードがありました！

- ふれあい訪問で住民と対面で話ができ、大変喜んでもらった  
ふれあい交流のつどいよりもふれあい訪問のほうが良いと思った
- お店や学校に行った時に「おばちゃん！！」と気軽に小学生達が声をかけてくれて、ほっこりとした気持ちになった
- 地区の役員になって多くと人とつながることができ、自分も楽しい  
地域の方々の見守りもできた
- 地区の民生委員の方々が、七夕の日の前に来てくれて施設の子どもたちと交流してくれる。七夕飾り作りや紙芝居をしてくれるので、毎年子どもたちの楽しみな日になっている。

行動指針	現状	これから取り組むこと (令和8年度～令和12年度)
<p><b>誰もが集える地域のつながりの場をみんなで作ろう</b></p>	<p>① <u>ふくしなんでも相談</u> 五十市地区公民館 (週1回) 今町多目的研修施設 (週1回)</p>	<p>【なんでも相談の周知】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手に取りやすい広報紙作成とデジタル活用による周知</li> </ul> <p>【移動福祉相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自治公民館に移動式出張相談の実施</li> </ul> <p>【相談しやすい環境づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・馴染みやすい名称に変更</li> <li>・開設場所や日時の柔軟性</li> <li>・サロンのような交流の場（お茶、お菓子提供）や情報が集まる場にする</li> </ul>
<p><b>関係団体の情報共有の場を作り、日頃から顔の見える関係と連携体制を作ろう</b></p>	<p>② <u>自治公民館長・民生委員児童委員・地区社会福祉協議会合同意見交換会</u> 圏域内の課題共有や連携体制をより強固なものにしていくことを目的とした意見交換の場（年1回）</p> <p>③ <u>地域・学校・社会福祉施設との意見交換会</u> 圏域内の課題共有や連携、協働して取り組める事業の検討を目的とした意見交換の場（年1回）</p>	<p>【場の継続性と充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なテーマ設定と実施回数の増加</li> </ul> <p>【多世代参画と交流の場づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代の柔軟な発想の取り込み</li> <li>・馴染みやすい名称に変更</li> </ul> <p>【コーディネーターの配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携協働の中間的な人材の配置</li> </ul> <p>【福祉施設の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域拠点としての開放と活用</li> <li>・福祉施設が持つ強みの掛け合わせ</li> </ul>
<p><b>身近な場所で様々な世代の住民が参加し、交流できる場を作ろう</b></p>	<p>④ <u>いたつみるかいの推進</u> 自治公民館単位での住民の交流活動に対する助成 (随時開催)</p>	<p>【助成の周知強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治公民館長への紙面による周知（チラシ作成、広報誌掲載）</li> <li>・他館実施状況の発信と意見交換の機会</li> </ul> <p>【実施者の負担軽減】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成手続きの簡略化</li> </ul>

# まんなか 活気あふれる いそいち 』

<p style="text-align: center;">実現するために必要なこと ①組織体制、②財源、③事務局機能、④拠点</p>	<p style="text-align: center;">目指す地区社協像</p>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動式出張相談の住民への広報周知（自治公民館長の協力を得る）</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国庫補助金の活用</li> <li>・国庫補助金支出が難しい費用（お茶等）は自治公民館予算の相談</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語り場をキーワードにした名称変更</li> <li>・SNSを含むデジタル発信を試みる</li> <li>・ターゲット層の設定</li> <li>・住民が気軽に立ち寄れるような場所にする（交流、カフェ、遊び、学習等）</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従来どおりの開設に併せて移動式出張相談の実施（自治公民館巡回、こけな い体操の場など）</li> </ul>	<p>①組織体制:「固定化」 から「チーム戦」へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人脈を活かし、幅広い人に声掛けしながら年齢層の厚い組織体制にする</li> <li>・地区社協担当者の増員</li> <li>・学校関係者の役員・理事参入</li> <li>・関係機関とつながりのある地域</li> <li>・専用事務室の確保</li> <li>・有給職員の雇用</li> <li>・法人格の取得（NPO法人、一般社団法人等）</li> <li>・策定委員会のメンバーを構成メンバーにする</li> <li>・有償ボランティアの拡大</li> <li>・地元企業の参画</li> <li>・動きやすいポストづくり</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の福祉施設職員との連携</li> <li>・各校生徒会、ボランティアクラブなど活動的な児童生徒の協力</li> <li>・従来の年1回の取組を年2回程度に検討</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社会福祉協議会活動推進助成金の活用</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携、協働を取り持つコーディネーターの役割（中間の調整役）を地区社会福祉協議会が担う</li> <li>・交流の場をキーワードにした名称変更</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の協力が得やすい場や時間帯の設定</li> <li>・地域拠点としての福祉施設の活用（施設体系によっては慎重な対応が必要）</li> </ul>	
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治公民館長の理解促進（より知る機会の創出）による実施</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社会福祉活動推進助成金の活用</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周知強化と助成手続きの簡略化による全地区実施を目指す</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治公民館の活用</li> </ul>	

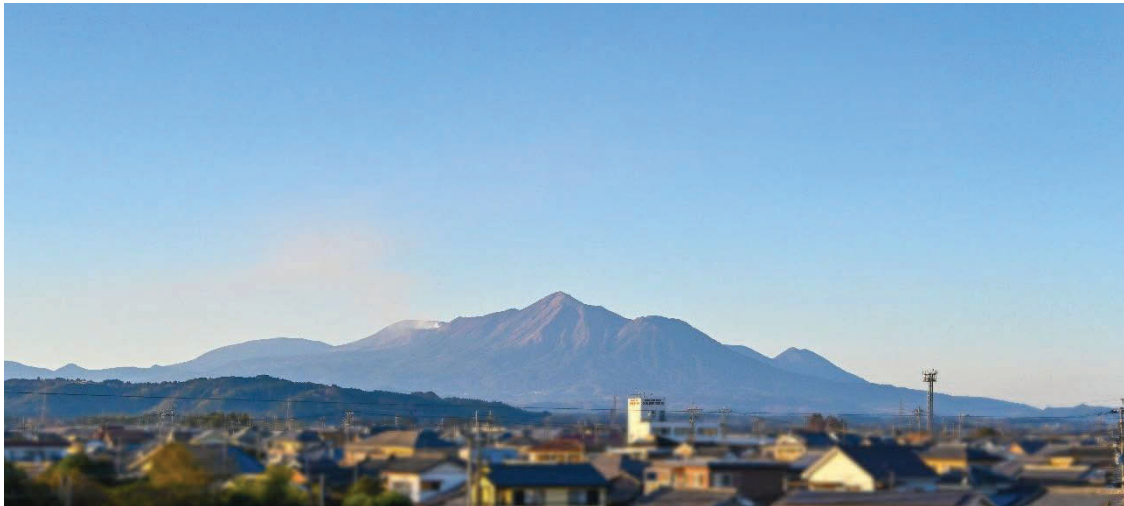
行動指針	現状	これから取り組むこと (令和8年度～令和12年度)
<p>住民同士のふれあいの機会を大切に、高齢者を地域で見守る体制を作ろう</p>	<p>⑤ふれあい訪問（ふれあい交流）事業 1人暮らし高齢者の生活状況の確認と見守り機会として見舞品を届けるもの（年1回）</p>	<p>【参加対象の再考】 ・対象年齢を下げ、より多くの方の参加</p> <p>【柔軟な事業展開】 ・訪問型と交流型のハイブリッド化</p> <p>【移動手段の確保】 ・福祉施設の地域貢献として交流型の移動支援協力を得る</p>
<p>地域での交流の場を作り、男性も地域に出るきっかけを作ろう</p>	<p>⑥男性クッキング（おじいちゃんクッキング） 調理活動を通じた住民同士の交流と郷土料理の伝承 五十市校区（月1回） 今町校区（年2回）</p>	<p>【PR強化】 ・興味が沸くようなチラシ作成 ・他事業の集いの場を活用した周知（こけい体づくり講座、健康サロン等）</p> <p>【参加対象の再考】 ・対象をおじいちゃんに限らず子どもや親子など幅広く募集</p>
<p>地域の困りごとを地域で支える助け合いの仕組みを作ろう 住民同士のつながりを大切に、やりがいを持ってできる活動を推進しよう</p>	<p>⑦生活援助員研修 高齢者の自立した生活の継続をサポートする援助員向けの研修や新規援助員の養成講座の実施 (年1回)</p>	<p>【継続性と交流の場づくり】 ・研修以外に援助員同士が親睦を図る機会の設定</p> <p>【事業のPR】 ・援助員活動のロコミ ・関係団体（自治公民館長、民生委員児童委員等）に繰り返しの啓発</p> <p>【ニーズ把握の工夫】 ・他事業実施時にニーズを掴む（例：ふれあい訪問事業等）</p>
<p>学校と連携し、子どもたちと地域のふれあう場を作ろう 学生ボランティアの力を活かしながら、一緒に地域での活動を進めよう</p>	<p>⑧学習支援事業 児童生徒の地域における学びの場や将来に向けた選択の幅を広げる機会として開催するもの 五十市小学校、今町小学校（年2回） 五十市中学校（年10回）</p>	<p>【事業の周知強化】 ・児童生徒、保護者へのPR（デジタル媒体、紙面媒体）</p> <p>【ボランティア人材の発掘】 ・市内大学や地区内塾講師、退職校長会への協力依頼</p> <p>【小地域開催の検討】 ・児童生徒が通いやすい身近な圏域で開催</p>

<p style="text-align: center;"><b>実現するために必要なこと</b></p> <p style="text-align: center;"><b>①組織体制、②財源、③事務局機能、④拠点</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>目指す地区社協像</b></p>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治公民館長と民生委員児童委員による訪問型の継続</li> <li>・中学生ボランティアによる見舞品作成</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社会福祉活動推進助成金の活用</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な交流型の実施（1年間で5館、3年間で地区内全館実施）</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治公民館の活用</li> </ul>	<p>②財源：「依存」から「稼ぐ力・応援される力」へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人サポーターの募集</li> <li>・協賛企業（スポンサー）の発掘</li> <li>・自主財源確保のためのツール開発</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治公民館長、民生委員児童委員との連携協働による募集</li> <li>・郷土料理を伝承する人材（高齢者）の確保と発掘</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社会福祉活動推進助成金の活用</li> <li>・参加者から会費を募る</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味が沸くような効果的なチラシ作成</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区公民館、多目的研修館</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社協のファンを増やして財源確保</li> <li>・サロン等のイベント参加費</li> <li>・地区社協の宝くじ（抽選方式の協賛）</li> <li>・人材を活かした収益事業（演奏、手品）</li> <li>・物品販売</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治公民館長、民生委員児童委員との連携協働による新たな援助員の発掘とニーズがある住民の募集</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協福祉活動推進助成金の活用</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他事業実施時にチラシ配付とPRをし、必要な支援ニーズとのマッチング</li> <li>・登録援助員が一堂に集える場の定例化（年2～3回）と研修以外の要素（親睦の機会、他地区との交流等）を取り入れる</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区公民館、自治公民館の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場所、物の貸し出し</li> <li>・有償サービスの導入</li> <li>・忌明け寄付の活用</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなボランティアの発掘（大学生、塾講師、退職校長会等）</li> <li>・まちづくり協議会との連携、協働によるコラボ企画</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都城市子どもの生活・学習支援事業活動助成金活用</li> <li>・参加者から会費を募る</li> <li>・まちづくり協議会との協働による予算を組む</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの機会以外の居場所づくりとして、児童生徒の親世代を地域に巻き込み親子で楽しめる場づくり</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校以外の自治公民館の活用</li> </ul>	

行動指針	現状	これから取り組むこと (令和8年度～令和12年度)
<p>いろいろな世代に活動を知ってもらい、全ての人を対象とした福祉活動に取り組もう</p>	<p>⑨地区社協だより  <u>広報「あゆみ」発行</u>  地区社会福祉協議会が行う活動を地区住民に広く周知することを目的に発行  (年2回)</p>	<p>【紙面の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>紙面のユニバーサルデザイン化</li> <li>興味が沸くようなコンテンツの再考</li> <li>紙面内容に若い年齢層の力を借りる</li> </ul> <p>【他媒体とのコラボ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市社協広報媒体の活用</li> </ul> <p>【デジタル化の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SNS（LINE、インスタグラム）を活用した魅力発信</li> </ul>
<p>中学生が地域で活躍できる場を作り、子どもたちの思いやりの心を育てよう</p>	<p>⑩五十市中学校ボランティアクラブの活動  <u>中学生のボランティアクラブと連携した地域活動への参加や地域づくりの展開</u>  (随時)</p>	<p>【中学校ボランティアセンター創設】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域行事の情報共有</li> <li>地域課題を知る機会（意見交換含む）</li> <li>ボランティア活動のマッチング</li> </ul>
<p>悩んでいる人を1人にさせないように、住民同士のつながりの場を作ろう</p>	<p>⑪介護者のつどい  <u>介護経験のある住民や支援関係機関を対象にした学びの機会、集いの場づくり</u>  (年1回)</p>	<p>【活動の周知と内容の再考】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な広報と名称変更</li> <li>介護の予備知識や施設体系、各種サービスを学べる場に見直し</li> <li>介護者同士のネットワークづくり</li> </ul> <p>【参加対象の再考】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象を介護者に限らず幅広く声かけ</li> </ul> <p>【福祉施設との協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉施設の活用（会場、講師、見学等）</li> </ul>

<p style="text-align: center;"><b>実現するために必要なこと</b></p> <p style="text-align: center;"><b>①組織体制、②財源、③事務局機能、④拠点</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>目指す地区社協像</b></p>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と連携協働した発信（小中学校が使用する情報閲覧ツール「シグファイア」の活用）</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協福祉活動推進助成金の活用</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSを活用した情報発信</li> <li>・紙面充実に向けて若い年齢層の力を借りる（アイデア、新たな発想）</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区公民館事務局</li> </ul>	<p><b>③事務局機能：「事務処理」から「つなぎ役」へ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局員の配置</li> <li>・相談窓口の多機能化（専門相談会、サロン実施）</li> <li>・週5日開設</li> <li>・地区社協にボランティアコーディネーターの配置</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校内に「中学校ボランティアセンター」を立ち上げ、各種地域行事のボランティアとして参画</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校生徒会活動の予算</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校ボランティアセンターが中心となり活動の調整やマッチング</li> <li>・ボランティア活動による地域との関わりを通じた福祉教育の機能</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五十市中学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区担当2人体制</li> <li>・ICTの活用（報告書類の簡略化、デジタル化）</li> <li>・いろいろな事業で企業とコラボ</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の福祉施設との連携、協働による実施（企画、講師派遣等）</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社会福祉活動推進助成金の活用</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流やつながりをキーワードにした名称変更</li> <li>・対象者の範囲を広げ、介護予防の視点や介護従事者のリフレッシュの場、住民同士がつながる機会のある場を目指す</li> <li>・集いの場以外に介護者同士が交流できる場の検討（SNSの活用）</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の福祉施設の活用（見学、交流の場）</li> </ul>	<p><b>④拠点：「会議室」から「あたたかい居場所」へ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専用机を地区公民館内に配置する</li> <li>・子どもの居場所の開設</li> <li>・空き家・空き教室を活用した居場所づくり</li> <li>・1地区に複数（2つ以上）の拠点化</li> <li>・小学校区でのミニサテライト</li> <li>・なんでも相談室を雑談室に</li> </ul>

地区の風景



五十市中学校から見た霧島山

策定委員名簿（委員長／福丸 良秋 副委員長／函師 光春）

No.	氏名	所属
1	福丸 良秋	五十市地区社会福祉協議会 会長
2	西川 英男	五十市地区社会福祉協議会 副会長
3	尾藤 正武	五十市地区社会福祉協議会 副会長
4	中馬 樹美郎	五十市地区社会福祉協議会 会計
5	石井 澄子	五十市地区社会福祉協議会 事務局長
6	沼口 静子	五十市地区社会福祉協議会 事務局員
7	函師 光春	五十市地区自治公民館連絡協議会 会長
8	上田 公和	五十市地区自治公民館連絡協議会 会計
9	堀内 泉	五十市地区自治公民館連絡協議会 事務局長
10	温水 順子	五十市地区民生委員児童委員
11	大橋 あゆみ	五十市地区民生委員児童委員（主任児童委員）
12	天神 サダ子	五十市地区婦人会 会長
13	学所 友子	五十市地区婦人会 副会長
14	児玉 道子	五十市地区高齢者クラブ連絡協議会 副会長
15	中馬 里美	五十市・横市地区地域包括支援センター 管理者
16	中玉利 百合恵	五十市・横市地区地域包括支援センター 保健師
17	三角 太作	森山ウエルライフグループ 課長補佐
18	宮城 博範	石井記念有隣園 園長
19	瀬口 由香里	さつき保育園 園長
20	村川 真矢	五十市小学校PTA 会長
21	岩間 将一	今町小学校PTA 会長
22	野口 諒	明和小学校PTA 副会長
23	大崎 貴博	五十市中学校PTA 会長